

科目名	地域のくらしを支える看護Ⅰ	配当時期	1年次後期	講義担当者
時間割表記名		単位数	1単位	高木 雅弘
	地域のくらしを支える看護Ⅰ	時間数	15時間(8回)	(実務経験のある教員)
事前学習内容				
講義に必要なテキストを熟読する。				
授業目標				
1. 時間の流れや場の広がり、ライフイベントなどとともに人々の暮らしを理解する。				
2. 人々の生活圏・生活環境を理解する。				
3. 地域や様々な場での地域活動について理解する。				
4. 環境が生活にどのような影響を与えるか理解する。				
DPとの関連				
DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。				
DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。				
DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。				
DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。				
DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。				
授業の流れ				
回	学習内容	方法	備考	
1	1. 暮らしとは 1) 暮らしを構成するもの 2) 暮らしている人(一人ひとり異なる暮らし) 2. 地域とは 1) 地域とは 2) 地域によって異なる暮らし	講義 演習(グループワーク)	テキスト①②	
2	3. 地域の構成要素(地域の構成と特性) 1) 地域の歴史や地域文化の特徴 2) 地形・気象・気候の特徴 3) 土地環境・土地利用の特徴 4) 人口・経済・産業の特徴 5) 地域の住民組織	講義 演習(グループワーク)	テキスト①②	
3	4. ライフステージによる多様性 1) 小児期の対象者	フィールドワーク 計画(90分)	テキスト①②	
4	2) 成人期の対象者	実施(180分)		
5	3) 老年期の対象者			
6	5. ライフステージによる地域活動 6. 各ライフステージで共通する地域活動	まとめ(90分)		
7	7. 生活環境が生活に与える影響	発表会	テキスト①②	

8	8. 地域の生活環境が健康に与える影響		※8 回目 45 分
受講上の注意 ○フィールドワークでは、地域で生活している高齢者の活動に同行するため、老年看護学概論で学んだ高齢者の特徴を復習し、高齢者を尊重した態度で活動できるよう学習しておく。 ○課題レポート、発表についてはルーブリックを示して評価する。			評価方法 出席状況 レポート
使用するテキスト ①系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院 参考文献 ①地域・在宅看護 看護判断のための気づきとアセスメント 中央法規			